

1 【活動の趣旨】

ふるさとの人や自然、くらし、文化に愛着や誇りを育む機会にするために環境教育を核に地域協働合校事業を進めている。全校の学びの成果を展示物にまとめ、交流、発信「渋川E（いいまち）S（しぶかわ）D（だいすき）ミュージアム」を開催し、保護者や地域の人々に発信している。

2 【特徴的な活動内容】

○5年生では、「滋賀の郷土料理学習」を核に滋賀の5つの食文化財を中心に郷土料理の魅力について考えた。学習では、琵琶湖の漁師を招き、琵琶湖の現状について学ぶとともに、琵琶湖の魚貝を使った郷土料理「湖魚の佃煮」や「アメノイオご飯」を試食して味わった。また日野町から和菓子職人を講師に招き、丁稚羊羹作りを実施した。作った丁稚羊羹はパッキングしてもらい、家に持ち帰って家族に学んだことや魅力を伝えた上で、家族と共に味わった。学習のまとめでは、新聞やプレゼンテーションソフトにまとめ全校に発信した。

○6年生では、びわ湖真珠についての学習を通して、滋賀県の魅力を守り伝えていくための取り組みについて学んだ。修学旅行では三重県の真珠島に行き、びわ湖の真珠と海の真珠の違いについて学ぶ機会とした。



【琵琶湖の漁師さんと湖魚】



【びわ湖真珠のお話】

3 【実施に当たっての工夫】

実際に味わうことで、味覚に残り、記憶に残る。このことを大事に体験を積み重ねてきた。コロナ禍では、みんなで調理をする活動に制限があったことから、子ども達による調理実習は、控え、ゲストの講師が実演を行い、子どもたちが少量味見できるようにした。また、下学年の栽培活動でも、ゲストの調理が出来ない時は、レシピと栽培した野菜を持ち帰り、家庭での調理と試食を促した。

4 【事業の成果】

本報告では、1事例であるが、すべての学年が地域の方に協力を得て、子ども達の豊かな体験の場・学習の場を提供していただいている。活動を通して子どもたちの地域に対する愛着が生まれ、地域行事に積極的に参加する児童も多い。また、保護者や地域の方々にも地域のことを知ってもらう機会となっている。テーマの通り、子どもも大人も活動に関わることで学び、ふれ合いを深めている。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・子どもの実態や学習の内容に合わせて工夫の余地がある。めあてをしっかりと設定して見通しをもって取り組みたい。
- ・人との出会いを通し、体験的な学習を実現させるために地域の方が学校に足を運びやすいように学習サポーター募集等の呼びかけをすることを協議している。